

令和7年2月14日

課 名 環境県民局高等教育担当

担当者 担当課長 英賀谷

内 線 2751

令和6年度の学校基本調査結果について (大学等進学時における転入・転出の状況)

1 要旨

文部科学省「令和6年度学校基本調査」に基づく、大学等（大学・短期大学）進学時における転入・転出の状況について報告する。

2 現状・背景

大学等進学時の転入・転出状況は、コロナ禍等の影響を受けて地元進学率が高まった令和3年度には1,128人まで改善したものの、令和4年度以降、転出超過は拡大傾向となっている。

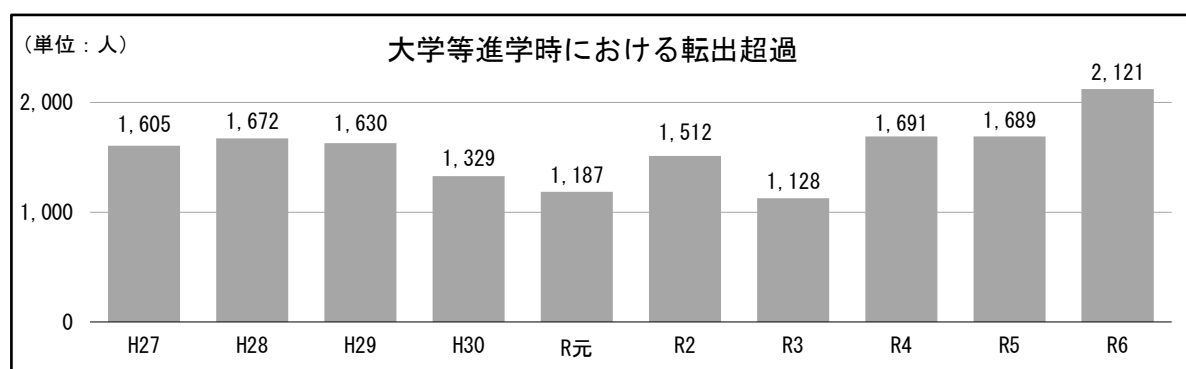
3 概要

(1) 調査対象

令和6年5月1日現在、大学等に在籍している新入生

(2) 調査結果

ア 転入・転出の状況



イ 要因・分析

- 大学等進学率は全国を上回る水準で推移しているものの、18歳人口の減少に伴い、県内高校を卒業して大学等へ進学した学生は、15,073人（▲184人）となった。

- 大学等進学率 $\boxed{R5}$ 63.5% → $\boxed{R6}$ 64.3% (+0.8%) (全国平均 $\boxed{R5}$ 58.2% → $\boxed{R6}$ 59.0%)
- 大学等進学者 $\boxed{R5}$ 15,257人 → $\boxed{R6}$ 15,073人 (▲184人：▲1.2%)

- 県外から県内大学等への進学者5,171人に対し、県内から県外大学等への進学者は7,292人となり、その差2,121人（+432人）の転出超過となった。

- 県外高校から県内大学等へ進学 $\boxed{R5}$ 5,449人 → $\boxed{R6}$ 5,171人 (▲278人)
 - ☞ 転入者の約41%が近隣県（山口県、岡山県、島根県、愛媛県）出身、4県からの転入者数は減少傾向 $\boxed{R4}$ 2,431人 → $\boxed{R5}$ 2,364人 → $\boxed{R6}$ 2,113人
- 県内高校から県外大学等へ進学 $\boxed{R5}$ 7,138人 → $\boxed{R6}$ 7,292人 (+154人)
 - ☞ 転出先としては関西圏の割合が最も多い（約34%）、関西圏への転出者数は増加傾向 $\boxed{R4}$ 2,327人 → $\boxed{R5}$ 2,463人 → $\boxed{R6}$ 2,470人

- このことに伴い、県内大学等の定員充足率は、令和5年度の95.0%から令和6年度には91.4%（▲3.6%）に低下した。（令和2年度の100.9%をピークとして減少傾向）

